



第一期中期計画 事前評価

業務実績報告書の概要



PUBLIC UNIVERSITY CORPORATION
FUKUYAMA CITY UNIVERSITY

公立大学法人
福山市立大学



I. 4年間の振り返り

- 2021年度に公立大学法人に移行した当初は、コロナ禍の下で学生の学びを守ることを最優先に、機動性・自律性のある法人・大学運営を確立しつつ、新たに立ち上げたワーキンググループで法人化の趣旨を教職員と共有するなど、法人化を大学改革に活かす道を模索してきた
- 同時に、予想をはるかに超える少子化の進行など、地方大学を取り巻く環境の大きな変化を念頭において、新学部設置等について福山市との対話を積み重ねるとともに、地域や産業界との連携、更には国際交流を進展させてきた
- 中期目標・中期計画の期間（6年間）も残り2か年度となり、これまで受けてきた法人評価（2022年度・2023年度）や認証評価（2022年度）での指摘を真摯に受け止め、中期目標・中期計画の達成や大学の発展に向けて、教職員が一丸となり、多くのステークホルダーの更なる協力を得ながら、引き続き様々な課題や挑戦に向き合っていく

法人運営の土台づくり

2021年度

- ・公立大学法人への移行（教職員の意識改革）
- ・カリキュラム検証・科目整備の議論・検討の開始

大学改革の議論の本格化

2022年度

- ・新学部設置と財源確保に向けた方針を福山市と確認
- ・認証評価の受審（適合認定）とそれを受けた課題の明確化

新たな法人体制への移行

2023年度

- ・大学・高専機能強化支援事業への応募・選定
- ・中期計画の変更認可

経営基盤の強化

2024年度

- ・みらい共創基金の創設
- ・プロパー職員採用選考の初実施
- ・小松安弘記念館の供用開始

中期目標(3つの重点目標)の達成に向けたこれまでの主な取組実績

重点目標 1

持続可能な地域社会の発展
に寄与する人材の育成

社会の変化、地域のニーズや期待、国政策の方向性に呼応

- ① 新学部設置に向けた取組
- ② 教育内容の充実

重点目標 2

開かれた教育研究拠点
としての地域社会への貢献

地域や他大学とのつながりを強化し、連携した取組を推進

- ① 産学連携の強化
- ② 教育研究交流の推進

重点目標 3

将来を見据えた
運営基盤の確立

法人・大学運営の機動性・自律性の向上に資する取組を推進

- ① 財源確保策の強化
- ② 教職員体制の充実
- ③ 効率的な業務運営の推進

Ⅱ. これまでの主な取組実績と今後の方向性

重点目標 1 | 持続可能な地域社会の発展に寄与する人材の育成

—— これまでの主な取組実績 ——

① 新学部設置に向けた取組

2022



- ・新学部設置など本学の発展に向けた検討をしていくことを法人で確認し、方向性や財源確保を福山市と共有
- ・大学・高専機能強化支援事業への応募・選定
- ・新学部設置基本構想検討委員会の設置
- ・新学部設置基本構想の策定

2023



新
学
部
の
概
要

【名称（仮称）】 情報工学部 情報工学科

【開設時期】 2027年4月

【入学定員】 80人

※ 都市経営学部の入学定員を150人→120人に
変更することから、総入学定員は50人増



2024



- ・新学部設置準備室・新学部設置準備委員会の設置
- ・新棟整備基本計画の策定
- ・教員の公募・選考

② 教育内容の充実

2021



- ・カリキュラム検証・科目整備の議論・検討の開始
- ・新学部設置を見据え、教育学部・都市経営学部の改革にも積極的に取り組むことを全学で確認

2023



- ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の認定
- ・教育学部において、2025年度新設の児童教育学概論（児童教育学の理念・対象領域・研究法を概括）の教科書を制作

2024



【児童教育学概論】

—— 今後の方向性 ——

Point

1

新学部設置準備の確実な推進

- ✓ 設置認可申請に向けた取組（教員確保やカリキュラム作成など）の着実な遂行
- ✓ 新棟の遅滞のない整備
- ✓ 大学院（修士課程・博士課程）の設置準備
- ✓ 新たな教育研究活動・産学連携体制の確立に向け、国交付金の獲得も視野に入れたスキームの検討



【新棟 外観イメージ】

Point

2

教育学部・都市経営学部の学術の確立

- ✓ 教育学部の充実に向け、児童教育学概論の教科書の活用など、児童教育学の確立に資する優れた取組の成果を更に高めるため、教員の授業実践を支援
- ✓ 都市経営学部の充実に向け、領域横断系学部内に在する共通課題等を踏まえつつ、学生の視点に立ったカリキュラムの充実を検討

Point

3

大学院改革の着手

- ✓ 大学院教育の在り方、地域で果たすべき役割、社会人の受入れ等について、地域や産業界との対話を継続
- ✓ 実践的必要に応えることができる学術を確立し、学びの場として活用される大学院をめざした改革を実行

—— これまでの主な取組実績 ——

① 産学連携の強化

2021

- ばらの香りのアルコール除菌液の共同開発
- 団体との協定締結（1団体）

2023

- 企業との協定締結（3社）
- 海外大学との協定締結（8大学）
- 国際交流協定校で日本語スピーチコンテストを初開催



【ばらの香りの紙おしぼり】

2024

- ばらの香りの紙おしぼりの共同開発
- 企業との協定締結（1社）
- 海外大学との協定締結（5大学）
- 国際交流協定校で短期英語研修を実施し、学生等を派遣
- 地域連携センター・国際交流センターの立上げ



【短期英語研修】

② 教育研究交流の推進

2022

- 教育学部において、学術の日（児童教育学に関する議論や交流を深める集い）を初開催
- 教育学部において、地域連携事業「FCU EDU+」を開始
- アイデアピッチ（学生活動等の発表会）を初開催
- 教員の研究シーズ集を制作



【アイデアピッチ】

2023

- 学内会議に学生⁽²⁰²³⁾や近隣学区の自治会連合会長⁽²⁰²⁴⁾が初参加

2024

- 小松安弘記念館の供用開始

—— 今後の方向性 ——

Point

1

産学連携の更なる強化

- ✓ 企業や海外大学との協定締結、地域連携センター・国際交流センターの立上げなど、新たに構築した産学連携・学术交流の基盤を活かし、大学・地域の発展につながる取組を推進
- ✓ 福山市の新たな政策展開を見据え、人材育成や地域経済の活性化に向け、国交付金の獲得も視野に入れつつ、福山市や産業界との対話を深化

Point

2

地域や産業界からの要請に対する対応

- ✓ 地域や産業界が大学に期待している役割が更に大きくなっていることを踏まえ、要請を受け止めながら、必要な対応を実行
- ✓ 大学の拠点機能強化や大学教育の深化の可能性を秘めている社会環境の変化に積極的に対応

Point

3

小松安弘記念館の更なる活用

- ✓ 多様な主体との学术交流を深化させるため、オープンでフレキシブルな空間として福山市が整備した小松安弘記念館を、公開講座やイベント等で積極的に活用



【小松安弘記念館】

これまでの主な取組実績

① 財源確保策の強化

2023

✓

2024

- 大学・高専機能強化支援事業への応募・選定
- 除却図書資料の有償譲渡の初実施
- 金融機関と遺贈寄附に関する協定を締結
- みらい共創基金の創設
- 基金室の設置
- 企業版ふるさと納税制度の活用開始



【基金室の設置】

② 教職員体制の充実

2024

- 教員人事委員会の設置
(教員人事の基準や手続等の一元化)
- プロパー職員採用選考の初実施
- 事務局職員確保・育成基本方針の策定



【転職フェアへの出展】

③ 効率的な業務運営の推進

2021

✓

2022

✓

2023

✓

2024

- 財務会計・規程管理システムの導入
- 教員公募における電子応募の導入
- 議事録作成支援システムの導入
- インターネット出願システムの運用開始
- 新たな就職支援システムの運用開始
- 一般選抜後期日程における受付順配席方式の導入
- 電子決裁システムの運用開始



【入試座席管理システム】

今後の方向性

Point

1

財源確保策の更なる強化

- ✓ みらい共創基金・企業版ふるさと納税制度を活用し、新棟整備の財源を確保（目標10億円）
- ✓ 新たな国交付金の獲得など、外部資金の獲得推進に向け、福山市や産業界との連携を強化

Point

2

法人・大学の未来を支える事務局の体制強化

- ✓ プロパー職員の採用活動を継続し、派遣職員と共に活躍できる組織文化を醸成しつつ、組織的な人材育成を推進するとともに、そのノウハウを共有するなど福山市との連携を強化
- ✓ 教協協働の要である事務局の役割の重要性を踏まえ、福山市の政策に即した取組へのチャレンジ等を通じて、事務局職員の能力・スキルを底上げ

Point

3

ガバナンス体制の強化

- ✓ SD研修等を通じて、全構成員の意識改革を進め、法人評価や認証評価での指摘への対応など、大学改革に誠実に向き合う組織文化を醸成
- ✓ 公立大学ガバナンス・コードへの理解を深めるとともに、法令遵守（コンプライアンス）・誠実性（インテグリティ）を重視した法人・大学運営を推進



【SD研修】



キャンパスは街、学ぶのは未来